

令和二年度事故防止委員会活動報告

中澤 勝義

事故防止委員会は継続して、事故報告の検証を中心にヒヤリハットレポートも引き続き検証してきました。小さな事故が大きな事故に繋がる事を意識する事は継続しました。

今まで、当該セクションで事故の検証を行なう事が目的でしたが、再発の有無ではなく、検証結果の報告を行なう事で原因の把握と対策の周知が出来、他で同様の事故が起こるといのが目的です。会議では、以前、似たような事故やヒヤリを他フロアで対策し、ルール化している事などが確認出来、その検証を他のセクションが共有しました。また、特に薬の事故については長きに渡り課題でした。「何故他の人に飲ませたの？」と、いう他者へ飲ませ間違いである、思い込みをどうすれば良いのか？マニュアルに沿った対応はどうすれば取れるのか？を毎年あれやこれやと取り組みながら、徐々に発生件数は減り、今年度に至っては、与薬の間違いは0件でしたが、その曜日に与薬しなければならぬ薬を与薬し忘れや、もう一包あるのに確認不足で薬箱に残っていた。などの事故が繰り返し起こり、解決には地道に検討を重ねて行く事になりそうです。

必須の研修会は前期と後期の二回開催しました。前期は、前年度に出来なかった誤嚥、窒息の事故から対応について行いました。開催については施設の必須の研修である事から3日を設定し、昨年同様にコロナ禍の為、人数を制限して開催しました。講義中心ですが、間隔を開けて少人数のグループワークをしながら、いざという時の為にどう行動するかを学びました。後期は前期の時に職員の意見としてあった、AEDの講習会です。消防署より人体の模型6体とAEDデモ機を借り、実践形式で心肺蘇生法とAED使用について学びました。前期、後期の研修共に、いざという時の対処法ですが、どちらも一人で対応せず、まずは人手を集める事、一人でやる事には限界がありますが、人が集まれば二次災害の可能性が減り、救急隊の要請と同時にその方の命を救う事が出来ます。せつかく設置したAEDが活用されないまままで終わらないよう最善を尽くすことも、我々施設職員の任務でもある為、事故防止委員でなくとも定期的にこういった研修を繰り返していく必要があると感じました。